

下記の通り東日本大震災復興支援コンサートを実施しましたのでご報告申し上げます。

記

主催：仙台おりひめステーション(武内園子)

日時：2012年3月1日(木) 10:30～11:30

場所：宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園4-1

会場：仙台市民会館ロビー

目的：東日本大震災で被災した方々を歌で励ましたい。

内容：女声ソプラノとピアノ伴奏によるコンサート

参加者：一般の方々

入場者数：約300名

演奏者：アイリカ・クリシャル(ソプラノ)(独)

ベルナルド・ファブリヤーン(ピアノ)(独)

演奏曲目：「ミルテの花」より「献呈」、「美しき5月」(シューマン)

「歌の翼に」(メンデルスゾーン)「花」「荒城の月」

「歌に生き、愛に生き」「ある晴れた日に」(プッチーニ)他

結果：午前10時半という早い開演時間でしたが、10時前から続々と人が集まりあつという間に用意した座席は満席となり階段や通路も人で埋め尽くされました。演奏されたのはハイネやリュッケルトの詩によるドイツ歌曲、イタリアオペラのアリア、日本の歌曲。喜びや悲しみを歌い上げる艶やかなソプラノとピアノの響きに、聴衆の皆さんはうっとり聴き入っていました。「花」とアンコールの「故郷」は会場全員で。ちょうど3月に入った晴天の朝、数日前の積雪も融かした柔らかな日差しの差し込む市民会館ロビーに「春の、うらのの…」と明るい歌声が響きました。「故郷」は、震災後ほとんどの復興支援コンサートでアンコールに歌われていますが、「皆さんもどうぞ一緒に。」と誘われても通常遠慮がちな声で歌われることの多い中、本コンサートではアイリカさんに引き込まれ、大きな歌声で会場が包まれすばらしい一体感が感じられ、涙を浮べる方々も。「ありがとう、家も無くなり色々辛かったけど励まされました。」「ぜひまた来て下さい。」と直接お礼を言いたい、握手していただきたい、と終演後は長い列ができました。

■経費報告

※調律費は10,000円を調律師に支払った。

※交通費／出演者の渡航費等＝出演者の自己負担

※交通費／市内の諸交通費、ガソリン代(+昼食費)

＝武内園子(ステーション代表)とステーションスタッフ1名が負担

■申請内容：調律費として10,000円の助成を申請いたしたく、お願い申し上げます。

《以下は河北新報3月12日紙面に掲載された「応援メッセージ3・11」への投稿文です》

無料演奏会に元気をもらおう(栗原市・80才女性)

先日、電車を乗り継いで仙台市に行きました。ドイツからソプラノ歌手のアイリカ・クリシャルさんが来て、市民会館で地震被災者を励ます無料コンサートを開くと聞いたのです。市民会館の1階ロビーはぎっしりと人で埋まっていました。私は片隅にしゃがんでいましたが私の肩をぽんとたたき腰かけなさいとロビーの席を譲ってくれた女性がいました。ありがたいことでした。

定刻の 10 時半に開演しました。シューマン、リスト、メンデルスゾーンなどのなじみの深い曲からはじまりました。「荒城の月」と「花」はきれいな日本語で歌いました。

プッチーニのオペラ「ある晴れた日に」は素晴らしく、拍手が鳴りやみませんでした。最後は全員で「ふるさと」の合唱です。震災で自宅が傷むなどしました。厳しい現実の生活が続く中で、幸福感にひたる事ができた時間でした。アイリカさんや主催者、後援者の方々に感謝です。少し、元気がでました。

